

経営比較分析表（令和5年度決算）

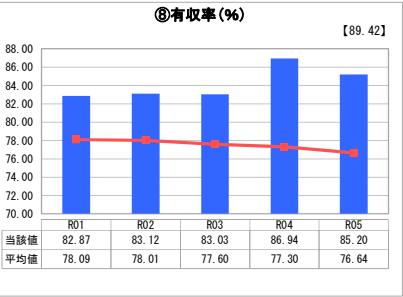
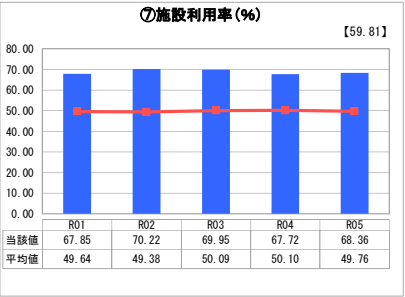
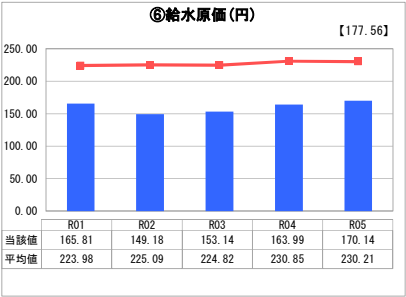
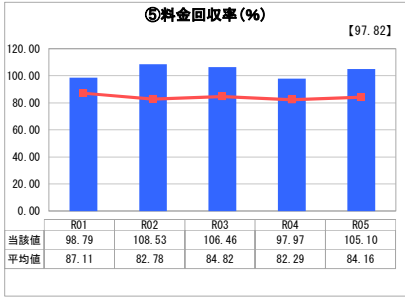
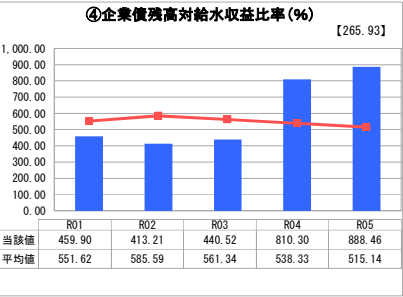
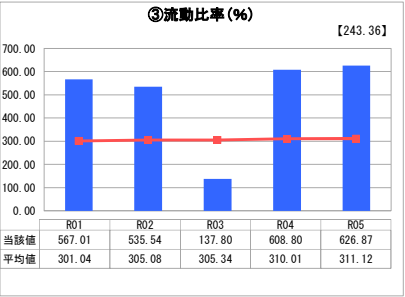
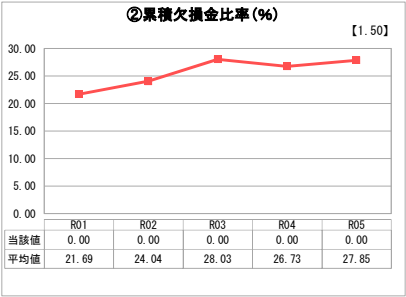
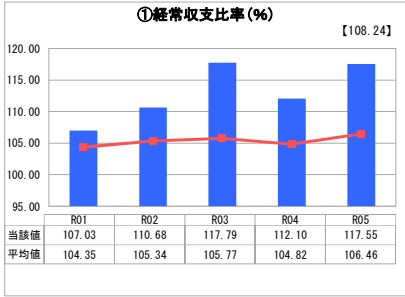
長野県 豊丘村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	56.54	99.77	3,605	

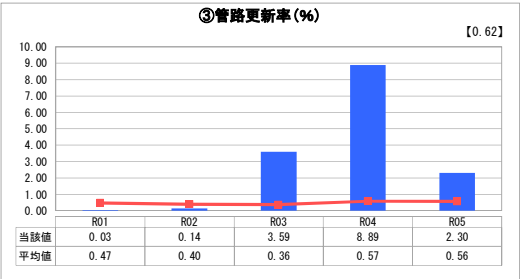
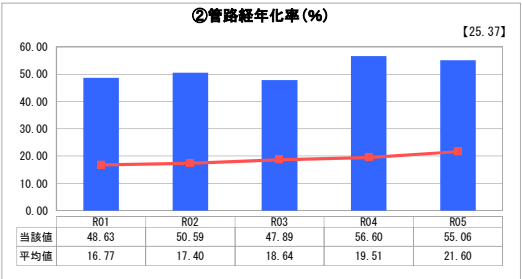
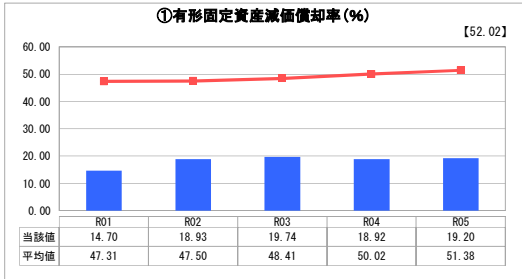
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,570	76.79	85.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,524	19.00	343.37

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
営業収益における給水収益以外の繰入金は、旧簡易水道事業における企業債の元利償還金であり、その内容は一般会計からの基準内繰入金として制度上認められた繰入であることから、経営状況は健全といえる。
しかし、施設の老朽化が進んでおり、令和3年度から全村を対象とした水道管更新工事に着手したため、この財源確保が必要であり、引き続き健全運営を行えるよう経営の効率化を進めていく。
④企業債残高対給水収益比率
水道管更新工事の財源として借入れる企業債残高が増加傾向であるため、経営戦略等を踏まえた長期財政計画等により、適正な残高規模を見極め、管理していく。
⑤料金回収率
令和5年度に料金改定を実施したため、再び100%を超える回収率となった。今後もこの状況を維持していく。
⑦施設利用率
平均値以上であり、適正水準の施設規模で収益が確保できている。今後も現状を維持するとともに、施設更新時には更なる規模の適正化について検討する。
⑧有収率
近年の上昇要因は、集中的な漏水修理工事への取組みと、水道管更新工事の成果によるものである。今後も更新工事を継続し、更なる有収率の向上を図る。

2. 老朽化の状況について

平成23～25年度に村内の旧堀越・長沢簡易水道地区の耐用年数を超えた水道管の更新事業を実施した。水道事業全体としては、平成29年度に水道施設の資産調査・評価を行った結果、水道管については、今後10年間で経年変化率が84%に達することが明らかとなった。
このため、令和元年度に経営戦略（アセットマネジメント計画）を策定し、令和2年度に更新計画を作成。令和3年度から水道管更新事業を計画的に進めている。

全体総括

水道事業への移行に伴い、各種財務諸表・指標等が整理され、当村の水道事業及びその資産の状況が明らかとなった。
令和元年度のアセットマネジメント計画（資産管理計画）を基に更新計画を策定し、令和3年度から計画的な更新事業に着手している。
しかし、更新事業期間は25年間の計画となっており、総事業費は52億円を見込んでいる。
この財源を確保するため、適正な料金水準等の把握・検討を目的として令和4年度に料金審議会を開催し、令和5年4月から平均10%増の料金改定を実施した。
今後も経営健全化のため、施設修繕等の平準化や計画的な機器更新等に取り組みつつ、水道施設更新事業の進捗管理を行い、継続的な財政計画の見直しを行うことで、持続可能な水道事業としての安定経営を目指す。